

「日本経済論」の採点結果(追試前の時点)

対象：商経学部(経済学科3～4年次など)の受験者61名

うち90点以上	4名	よく頑張りましたね。100点が1人います。
80点～89点	8名	気を抜かずに、これからも日本経済を勉強しましょう。
70点～79点	17名	日本経済の奥を理解するには、もうひと踏ん張りです。
60点～69点	13名	可くらいで安心しては卒業後に苦労しますよ。今後 も新聞などをよく読み、日本経済の知識を深めましょう。
50点～59点	11名	可までもう少し頑張りましょう。授業を馬鹿にしないで。
40点～49点	6名	可まで遠い道のりです。授業に出る習慣をつけましょう。
39点以下	2名	授業に出ていませんね。学習計画の見直しが必要です。

不受 0名*

* 試験中、「前期末試験を受けていない人、文章題を5問とも無回答の人(ろくに授業に出ていない人)、×問題を機械的に回答した人(ろくに考えていない人)は不受にする」と警告しました。幸い、対象者はいません。

試験で60点以上であれば自動的に合格、下回っていれば不合格です。研究室に泣きついてきても、一切考慮しません。無駄なあがきはやめましょう!

平均 66.6点, 合格率 69%(優 20% + 良 28% + 可 21%)

個人の点数を知りたい人は、**メールで時間を約束してから研究室に来て下さい。**研究室にいないことも多い(商経学部から経済学部は遠いので無駄足になりますよ)ほか、**在室のときでも約束なしに突然来られては困ります。**

(採点関連の注意点)

預金保険機構がセーフティ・ネットとして果たしている重要な機能を理解していない人が沢山います。話題の「ペイオフ」(金融機関が破綻したときに、預金保険機構がその金融機関の預金を名寄せした後、“一人1千万円以下の元本+その利子”を支払う制度)だけでなく、資金援助や公的資金注入などでも活躍しており、金融不安を鎮めるうえで非常に大きな役割を果たしています。この機会に基礎的な事実をしっかりと理解して下さい。

この程度のことは、新聞を読んだり、預金保険機構のホームページをみたりすれば簡単に分かることです。情報感度を高めるようにしましょう。

漢字の読み仮名を尋ねた問題では、「遵守」(じゅんしゅ<“そんしゅ”ではありません>)を読めていない人が沢山いました。コンプライアンスの関係で、最近話題になっている用語ですよ。また、「引当」(ひきあて)、「持合」(もちあい)を読めていない人もいました。このくらいの基本的な経済用語は、きちんと読めるようにしておいて下さい。

就職活動に入る3年生は、このぐらいのことを覚えておかないと面接で大恥をかきますよ。

論述問題では、自己資本比率と貸し渋りの関係を理解していない人が沢山いました。不良債権問題をきっかけに1998年度から導入された「早期是正措置」に伴って、銀行などの「自己資本比率」が大きく注目されるようになっていきます。自己資本比率の低い銀行は、金融庁から行政命令を受けるため、分子の「広義自己資本」を拡大するか、分母の「リスクアセット」を小さくしなければならないのです。一般に分子の拡大は難しいため、分母の抑制を考える銀行が少なくないのが実情です。最近の話題ですから、この機会に基礎的な事実をしっかりと理解して下さい。

皆さんが銀行などからお金を借りる側のとき、相手の銀行側の事情についてよく知っておかなければなりません。この機会に、こうした「自己資本比率」に関する制度について、しっかり覚えておいて下さい。

また、同じく論述問題で、「郵政民営化」についての理解も不足しています。郵政3事業のうちの郵便貯金と簡易保険では、国民から非常に大きな金額を集めていて、その多くが国債投資のほか、財政投融资制度を通じて公的金融機関貸出等に用いられています。これらの貸出等では、民間ほど厳しいリスク管理がなされておらず、どれだけ不良債権があるかよく分からない状態です。また、民間のような税金や預金保険料も払っておらず、競争条件が異なっているという問題もあります。民間活力を活かす意味でも、社会主義的な公的金融のあり方が問題視されているのです。郵便局で真面目に働いている職員が多いことは事実でしょうが、感情論ではなく、金融システムのあり方を議論する必要があります。

(全体の印象)

とてもやさしい問題だったのに、全体ではさほど出来ていません。合格者数は、平均的に授業に出ている学生数に、友人のノートなどで真面目に勉強した人、を加えたくらいでしょうか。受験者が前期末試験より減った(7人減少)のは、授業に出ている学生が試験を受けなかった事例が多いのでしょう。近畿大学商経学部では、単位取得の要件に「**授業に3分の2以上出席すること**」があるようです。今回の不合格者は、この条件を満たさずに単位をとることがいかに難しいかを、よく噛みしめて下さい。

授業中に話したとおり、授業に出る・出ないについては、**皆さんが**20歳を過ぎた**大人の判断で決めること**です。もちろん、大人の判断には、自己責任がつきものです(責任を取れない人は未成熟な子供です)。不合格者は、採点結果を踏まえて、今後の**自らのリスク管理**をどうするか、よく考えて下さい。

もっとも、後期末試験の平均点(36.0点)は前期末試験に比べて6点近くも上がっています。問題や採点をかなり甘くした面もありますが、今回頑張って勉強した人が多いことも確かでしょう。頑張って合格できた人は、その努力を大いに賞賛します。おめでとう。

以上

「日本経済論」前期の採点結果(50点満点で採点)

対象：商経学部(経済学科3～4年次など)の受験者68名

うち50点以上	1名	このまま勉強すれば優の可能性大(よく頑張りました)
40点～49点	8名	このまま勉強すれば優の可能性
35点～39点	10名	このまま勉強すれば良の可能性
30点～34点	21名	このまま勉強すれば可の可能性 <u>気を抜かずに</u>
25点～29点	10名	後期に頑張ればなんとか可となるかも
20点～24点	9名	後期にかなり勉強しないと不合格
19点以下	9名	後期に大いに勉強しないと不合格

(採点関連の注意点)

日本の財・サービスの輸出はGDPの1割を大きく超えますが、経常収支の黒字は数%しかありません。輸入などを引く必要があるからです。この機会に、正確に理解して下さい。

日本の輸入は、かつては「垂直貿易」といわれ、原材料や食料の輸入が全体の9割近くを占めていましたが、現在ではこの割合は半分強にまで低下しています。今では水平貿易が広がっているのです。

国債利払いは、「このところ年々増えている」わけではありません。確かに国債残高は急増していますが、低い金利の国債に置き換わる効果が大いのです(実際、平成12年度から14年度まで国債費は大きく減少しています)。もっとも、これ以上金利が下がることは考えにくいので、遠からず年々増える局面に変わると考えられます。

ボーナス点のグラフを提出した人は24人しかいません。授業関連の重要情報を入手するネットワークを構築することをお奨めします。**この能力は社会に出ても役に立ちます**。

(全体の印象)

今まで色々な大学で似た形式の問題を出して来ましたが、全体の点数が予想外に低いので驚いています。近畿大学の名誉のためにも、後期の試験では良い点数を取って下さい。

なお、記述式の問題については、他大学での試験に比べてずっと甘い基準で採点したのですが、白紙の答案が多数みられたこともあり、点数が伸びていません。**試験を受けるからには、意味のある解答を書くだけの経済学・日本経済の基礎知識を身につけておいて下さい**。そもそも、こうした知識のない人は単位の対象になりません。

警告!：前期のままで単位を取れそうな人は59%に過ぎません。残り41%の人は、後期に心を入れ替えて大いに勉強しないと、単位を取れません。こうした人たちは、まず**後期の授業に出ないと、単位取得は難しいでしょう**(レジュメだけで高得点を得るには、かなり幅広い予備知識が必要だからです)。

特に卒業や進級がかかっている人は、この機に後期の勉強方針を真剣に考えて下さい。もちろん、勉強せずに不合格になるのも皆さんの自由です。

以上